

(演題) 国際園芸博覧会フロリアード 2022 の取組み

(副題) これからの園芸博覧会が担う役割と展望

○加藤 茂男 (株式会社ヘッズ 東京本社)
(共同研究者氏名 なし)

キーワード: 「国際園芸博覧会」「園芸」「食と農」「環境教育」「ランドスケープ」

【1】報告の目的

園芸産業の先進国であるオランダ王国で開催された、国際園芸博覧会フロリアード2022の視察を通して、園芸博のイベントとしての主目的である園芸・農業・環境産業の育成と発信の取組みに加え、次世代の地球環境の担い手の育成を見据えた環境教育や環境への気づきに焦点を充てた会場計画の取組みを紹介する。

【2】フロリアード2022 会場の視察

オランダ、アルメーレで開催された国際園芸博覧会会場を視察し、現地ガイド(日本国出展の建築設計をサポートしたオランダ在住の日本人建築家)による解説のもと会場を観覧し、アルメーレ博における主な展示物や出展物の内容の理解と把握を行った。



会場内で開校している学校施設、「緑の肺」と呼ばれる建築緑化



再生利用を前提としたユニット式木造建築のナショナルパビリオン



昆虫との共存をテーマとした子供向けの環境教育ガーデン



都市と農と生き物の共生をめざしたアムステルダムの学校教育(食育)の取組みの展示

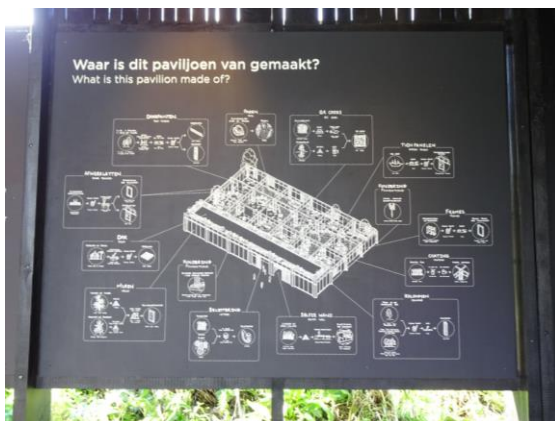
【3】フロリアード 2022・アルメーレ博の特徴

アルメーレ博の会場は、園芸博後に作られる環境都市の都市基盤をベースに会場が整備されており、オランダ王国が目指す環境都市をPRする環境博であった。

オランダ王国は、環境ビジネスをこれからの国家の基幹産業の1つとして捉えており、メインパビリオンとなるオランダ館では、環境ビジネスに取り組むスタートアップ企業の支援を含めた知的産業の取組みを伝える場として戦略的に活用し、今後に国益をもたらすためのビジネス展開につながる展示を行っていた。

ホストシティのアルメーレ館では、次世代の都市環境として都市と食と自然（緑と生き物）が共存するアーバンネイチャーのあり方をへのメッセージとして発信し、次世代の都市のあり方を来場者に理解を得るためのメッセージを発信する場として活用していた。

園芸博イベントとしての【万人受けのするお花畑】のようなエンターテインメント性の展示は少なかったものの、資源小国であるオランダが、この先の国家の産業の活路を見出す手段として園芸博を活用し、オランダ王国が目指す環境・教育・生活・ビジネス等のメッセージを発信する展示・出展を中心に構成した環境博として、成熟度やインテリジェンス度の高いイベントであった。



アルメーレ市の都市と緑と生き物の共存への気づきを発信する展示



ナショナルパビリオンでの植物由来の【代替肉】の取組みを展示

【4】次なる園芸博への期待

アルメーレ博の取組みを踏まえ、次なる国際園芸博へ期待する視点を以下に整理した。

1. 地球規模の課題解決のメッセージと環境への気づきに対する学びの体験プログラム

グローバルな視点での世界共通の環境問題へのメッセージを発信する展示や会場への来場を通じて環境への学びが体験できるプログラムを構築し、地球環境のあり方を学び、持ち帰っていただく会場計画の構築が望まれる。

2. 園芸文化の継承と発信につながる出展・展示

ローカリズムの視点での園芸文化の継承と発信の場として、各国が有する特徴的で魅力的な園芸文化に触れることができる出展や展示の展開が望まれる。

3. 新たな環境ビジネスや園芸産業の発展・育成へと繋がる参加スキーム

新たなビジネス交流や産業発展につながる出展・参加スキームを構築し、園芸博への参加を契機に新たなビジネス展開が生まれる参画の場の構築が望まれる。